



**貴社は製造業の中でも、精密なものづくりの会社ですが、なぜ沖縄への進出を決めたのですか？**

**赤星副社長** 東京工場は間借りで、事業規模の拡大を見据え手狭となっていたことから、自前の工場を作るにあたって、全国に候補地を探しました。沖縄の優遇措置や、工場の立地条件などを考えたときに非常にバランスが良く、実地調査を踏まえ、沖縄に決めました。その調査報告は県にも提供し、今後の企業誘致に際しての基礎データとしてオープンにしています。結論から言うと、中城湾港新港地区は埋め立て地でありながら地盤が固く、サンゴ礁の堆積は強いということがわかりました。クリーンルームを建てたときに、地盤沈下が起きると、そのひずみから汚染源が生じる怖れがあります。

また半導体業界のクリーンルームの規定温度は23度です。朝昼夜の寒暖差が少ない沖縄は、東京と比べて電気代を含めたランニングコストが3割程度安いという試算が出ています。

**沖縄国際物流ハブ機能のメリットについては？**

**赤星副社長** 海外取引に際しては、発注から納品に要するレスポンスタイムが極めて重要な取引条件となります。その点、那覇空港を拠点としたハブの活用は、夕方空港に製品を持ち込めば、翌日の午前中には台湾や韓国のクライアントに届きます。アフターサービスにしても、スタッフの常駐や現地のサービス会社と契約をするなどの形態がありますが、レスポンスタイムの短縮効果によりそのコストが最小限に抑えられます。また、海外との取引はFOB(フリー・オン・ボード)で、クライアントの指定する空港や港に持ち込んだら、そこから先は保険も含めて、全てクライアントの責任というのが一般的です。よって工場から積み場まで近い方が、コストもリスクも低くなります。東京工場だと空路は羽田や成田、船舶だと横浜又は下関、沖縄だと中城湾港新港地区から那覇空港となります。

全日空さんは、半導体の製造装置の運搬に世界的な信頼があります。全日空のハブを使えて、かつ工場が沖縄にあって、気候条件もマッチしているということが、総合的に我が社の「強み」になっていきます。これが、沖縄進出の背景です。

会社名/株式会社ナノシステムソリューションズ  
【会社概要】 代表者/芳賀 一実  
副社長:財務担当/赤星 治(インタビュー)

当社は産業技術総合研究所から技術移転の認定を受け、平成16年に研究開発型ベンチャーとして設立された。コア技術である「光学技術」を活用した半導体製造・検査装置等の開発設計、組立を行っている。特許43件を有しており、主力製品である「マスクレス露光装置」は第36回発明大賞において発明功労賞を受賞する等、高度な技術力を有している。沖縄公庫は、那覇空港の物流ハブ機能等を活用し、アジアの成長市場の需要を取り込むため、本社機能を含めた沖縄移転に際し、平成26年10月に地元行と協調して資本性ローン(P15参照)の融資を行った。

**今後の課題は？**

**赤星副社長** 地元沖縄からの雇用を増やしていきたいと考えています。これまで沖縄には精密産業がなかったようですが、学校の先生たちとの話では、仕事があればこれまで内地に就職先を探していた学生さんたちを紹介できるとのことです。沖縄の人は地元で仕事をしたい、という気持ちが強いようなので期待しています。そして、ベテラン社員によるOJTを重ね我が社の将来を担う人材育成に努めていきます。

**去年、沖縄公庫の資本性ローンの融資を実行させていただきました。**

**赤星副社長** 海外の市場を相手にするとき、上場していなければ、会社が健全であるという証明をするのはすごく難しいことです。沖縄公庫の資本性ローンを使っているということを説明すると、国の機関の審査基準を受けているということがわかり、与信能力が格段に上がります。我々中小企業にとってはすごくありがたいです。結果として、去った5月期決算において大幅な増収、更に資本性ローンの与信効果から部材等の調達条件も有利に奏功し、先ほどのランニングコスト含めたコストダウンにより収益状況も改善しております。この様な状況が続けばフル稼働後(10月予定)も収益確保に心配なく、その収益は研究開発に投入できる等の好循環が期待できます。

**今後の貴社の成長戦略について。**

**赤星副社長** 我が社のコア技術は「光学技術」です。このコア技術で一点突破してきており、マーケットシェアも海外勢に引けをとらないという自負があります。今後は主力製品である「マスクレス露光装置」を活用し、「超精密金型」の製造受託ビジネスを打ち立てていきたいです。足もとの金型製造は、1、2カ月時間を要し、それに伴いコストが高くなっています。そこで、我が社の「光学技術」を活用すれば時間短縮(数十時間)、コストダウンが図れます。加えて、那覇空港のハブ機能を活用すればアジア市場へのレスポンス(最短でオーダーの翌朝には搭載でき同日中に納品)によりビジネスチャンスの裾野が広がります。この形(安価な超精密金型)が構築できれば、特にベンチャー企業のビジネスアイデアがデザイン化され、新たな市場の活性化に資することができます。引き続き、コア技術を活かす研究開発を沖縄の地で進めていきます。